

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第25期・第3回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第25期・第3回）

議 事 次 第

- 1 日 時 令和4年11月15日（火）10:30～11:40
- 2 場 所 オンラインと対面のハイブリッド会議
- 3 出席者 秋山修志、石島秋彦、上田昌宏、上村想太郎、宇高恵子、
岡田眞里子、加藤晃一、川人光男、神取秀樹、栗原和枝、
佐甲靖志、笹井理生、七田芳則、諏訪牧子、寺北明久、
徳永万喜洋、豊島陽子、永井健治、中村春木、難波啓一
西坂崇之、野地博行、原田慶恵、坂内博子、山下敦子
（25名）
- 欠席者 片岡幹雄、杉本亜砂子

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議 題

- (1) 前回議事要旨の確認
- (2) IUPAB分科会からの報告
- (3) 「未来の学術振興構想」について
- (4) 公開シンポジウムの開催について
- (5) 次回分科会の開催予定について
- (6) その他

「2023年度申請予定の科研費・研究成果公開促進費・国際情報発信強化（B）について」

- 添付書類： 1. 前回議事要旨
2. IUPAB報告
3. 公開シンポジウム フライヤー

4. 未来の学術振興構想_意向表明
5. 2023年度申請予定の科研費について

5 議事要旨

(1) 前回要旨の議事確認 (資料1)

第25期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回(第2回)の議事録の内容に関してメール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

(2) IUPAB分科会からの報告 (資料2)

・ Council (評議会)

西坂崇之委員から、IUPAB (国際純粋・応用生物物理学連合, International Union of Pure and Applied Biophysics) Council (評議会) に関して報告があった。西坂崇之委員は、評議員として、2024年のIUPAB大会であるIBC KYOTO2024、および Structural Biology Task Forceを担当している。Councilでは現在、各地域や各国の生物物理学会においてIUPAB本体をアピールすることを進めており、2022年6月台湾開催のABA (Asian Biophysics Association)、2022年9月函館開催の日本生物物理学会で活動を行った。

・ IUPAB congress Kyoto2024 の準備について

西坂崇之委員から、IBC KYOTO2024 (IUPAB International Biophysics Congress in Kyoto, 2024) の準備状況に関して説明があった。セッションにおける講演者は、海外Advisory Board Membersからの候補推薦が終わり、今後決定する。座長の選出を今後行う。

・ IUPABの活動について

President-elect, Secretary-Generalの選出を行った。News Letter No. 80では、ウクライナに関してISC (International Science Council) の表明を引用した。

・ IUPAP Biological Physics (C6) 委員会とIUPABの協力

IUPAP (純粋応用物理学連合, International Union of Pure and Applied Physics) のC6委員会Commission on Biological PhysicsのChairである笹井理生委員と、IBC KYOTO2024 Executive committeeのChairである野地博行委員との間で意見交換がなされた。野地委員から、IBC KYOTO2024におけるセッションで、IUPAP C6と協力を計りたいとの提案があり、進めてゆくことになった。

(3) 「未来の学術振興構想」について（資料4）

永井健治委員と加藤晃一委員から、日本学術会議『「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」』への応募について報告があった。日本学術会議では従来、学術の大型研究計画に関する「マスタープラン」を期ごとに策定してきたが、これに変わって、「未来の学術振興構想」を策定することになった。「未来の学術振興構想」では、今後20～30年頃まで先を見通した学術振興の中長期的「グランドビジョン」を複数提示し、それぞれの「グランドビジョン」実現の観点から必要となる「学術研究構想」を示すことを目指している。そのために、中長期的な学術振興の「ビジョン」と10年程度で実施する「学術研究構想」からなる「学術の中長期研究戦略」を、現在公募している。

- 永井健治委員から、「生命科学クロスオーバー研究拠点の設立計画」について説明があった。応募に向けて、2022年10月に、意向表明を行った。2022年12月の締切までに、本申請を行う予定である。

生命科学においては、革新的生体計測技術の開発、AIやIT技術の発展、オープンサイエンス促進などにより、多次元・多階層時空間情報のビッグデータを基盤としたデータ駆動型研究へ大きく変革しつつある。そこで、日本独自の先導的バイオイメージング技術とデータ解析基盤・技術へのアクセスを広く国内外に提供し、世界の研究をリードするネットワーク型研究旗艦拠点「生命科学クロスオーバー研究所」を設置することを提案する。バイオインフォマティクス分科会や、生物科学学会連合（生科連）に働きかけており、広く賛同を得たうえで本申請を行う。

- 加藤晃一委員から、「マイクロコスモスに挑む生命シミュレータの創成」の提案について説明があった。分子ネットワークから細胞動態を予測し、高次機能に至るまで通貫に理解し、医・薬・農学をはじめバイオ応用科学の進展を促すために、分子から個体までの各階層での大規模な情報収集を体系的に行い、各種計測技術のネットワーク化・ラボオートメーション化・ビッグデータ拠点を整備する。そのために、オールジャパン連携と国際的広がりを持ち、オープンサイエンス型ネットワーク拠点整備を行い、マイクロコスモスに挑む生命シミュレータの創成を提案する予定である。
- 加藤晃一委員から、文部科学省「学術研究の大型プロジェクトの推進に

関する基本構想ロードマップの策定」にも別途留意する必要があるとのコメントがあった。

- 中村春木委員から、意向表明にて提出した概要に記載の「国際共同拠点」について、文科省が進めている国際共同利用・共同研究拠点事業 (https://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/1404499.htm) と混乱しないように「国際的な共同利用・共同研究の拠点」と修正してはどうかとのコメントがあり、本申請において文言を修正することとなった。

(4) 公開シンポジウムの開催について (資料3)

坂内博子委員から、本分科会の後に、生物物理学分科会・IUPAB分科会が主催して行う公開シンポジウム「異なるモダリティを統合するバイオ計測の最前線と展望」について説明があった。日本学術会議講堂での対面とオンラインでのハイブリッド開催で、第1部：バイオ計測の最前線、第2部：異なるモダリティ統合に向けた技術開発、総合討論の3部構成で行う。

(5) 次回分科会の開催予定について

年度内の3月頃か、新年度の4月頃に開催を予定している。

(6) その他

- 日本学術会議会員選考対象者及び連携会員選考対象者の推薦依頼が、各委員あてに届いているが、原田慶恵委員長から、ふさわしい候補を推薦して欲しいとのコメントがあった。
- 日本生物物理学会の欧文誌「Biophysics and Physicobiology (BPPB)」編集委員長の中村春木委員から、「2023年度申請予定の科研費・研究成果公開促進費・国際情報発信強化(B)」について説明があった(資料5)。募集対象に変化があり、「これまで行っていない新たな取組」が必要となった。今年は申請を見送るが、来年秋の申請に向けて準備してゆきたい。具体的には、IUPAB国際会議IBC KYOTO2024における、海外研究者の招聘費用や関連する論文の出版費用、若手研究者育成のイベント、BPPBや学会関連として出版するための費用などで、申請することを検討してゆきたいとの提案があった。野地博行委員から、IUPABに関わる教育関係や、招聘費用も出せるのなら検討したいとの意見が出された。中村委員から、IUPABにおける若手トレーニング講師の旅費なども

含められることが期待され、BPPB誌と連携を計りながらやれば良いのではとの意見が出された。